

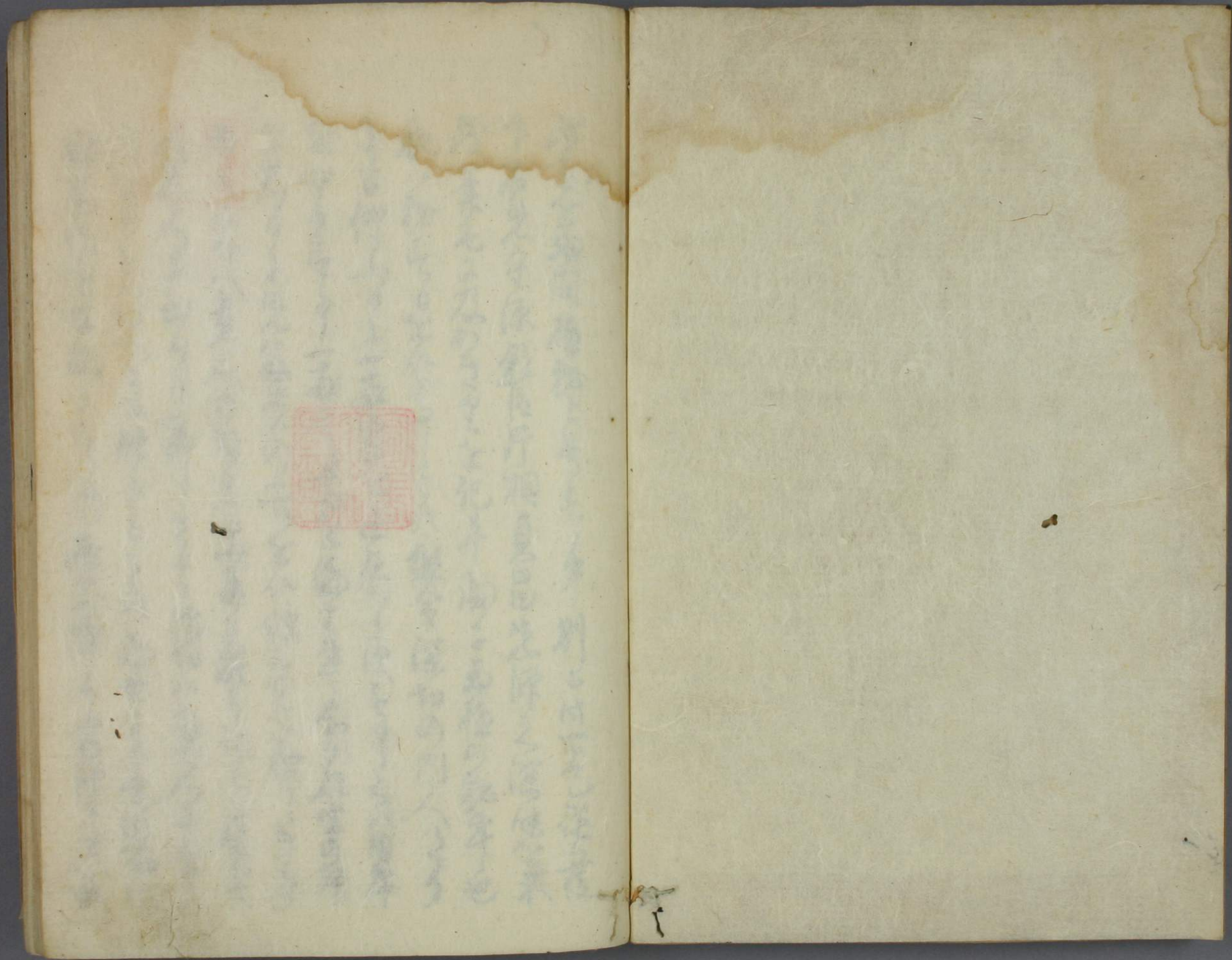


茶の書

五

ヲ多  
674  
x4





1

門ヲ 9  
兼  
巻



此書を初問極秘と号するは年別るけし平也徒在  
下石見守原教長片相貞昌先師之深味を不  
踐筆毛子及かきしを記平海子玉極の秘年也  
秘の秘はるるを言ふは縦令深切の門人  
とも傳ふるは一五筆をさるるは一六回席  
をゆりしるは一五人書を書きし年あり世の原  
を名るるは先師の二のを名る傳ふるは一  
るるは一人貴人の名をよるは成るるは一  
人名るるは一人の名をよるは成るるは一  
とらうとらうとらうとらうとらうとらうとらう  
彼不伝と世傳ふるは一五筆をさるるは一六回席

一のつゝ必時書中のまへに織子實ると師子  
 室と傳へて智得の年なることなるものつゝ身を  
 終と油切の心を遠くする南世の人を足んぬて  
 けしくハハのまへに一智海の子に門下とて  
 智年を坊てハ遠くするもの世の法に織子兼  
 好法師の自傳くしむと書くる九段の言ふ  
 大和成古傳と可<sup>イカヤ</sup>父伝くしむきしむ者んを自  
 序け序とより升味ある人もさし

茶湯大成或同極秘下

百辛ハ或人壺の口切年と  
 蓋目壺は張たる糸の對切指ハ客舟  
 の方一刀包の方一刀指年の方一刀包  
 三刀よささくも切こちなる斗と  
 けハ指するの對切指年の方その壺の  
 上と押さ也



四別一字原きええ  
 女に茶壺師と  
 五つとも茶壺  
 六つとも茶壺  
 七つとも茶壺  
 八つとも茶壺  
 九つとも茶壺  
 十つとも茶壺

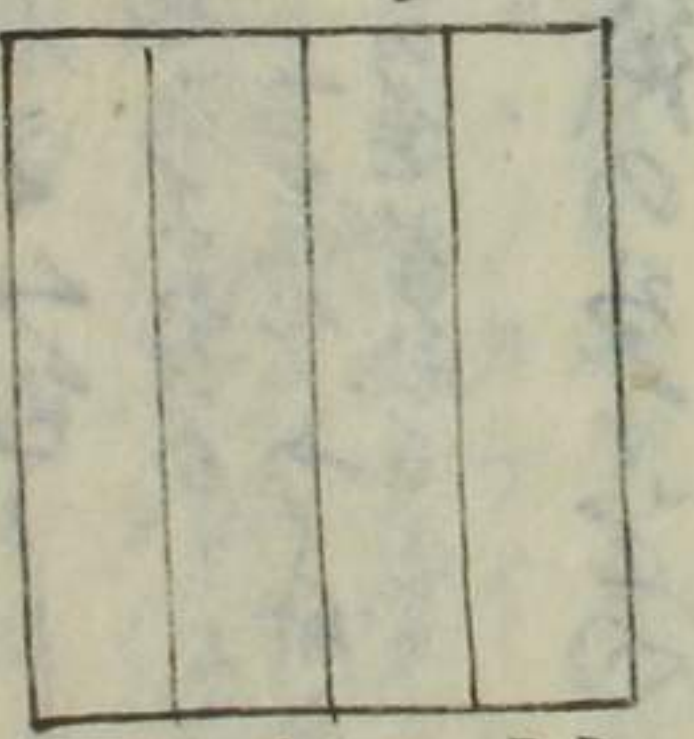
〇 別一字原きええ  
 一 壺不中の付出指入と  
 二 壺不中の付入と  
 三 壺不中の付出と  
 四 壺不中の付入と  
 五 壺不中の付出と  
 六 壺不中の付入と  
 七 壺不中の付出と  
 八 壺不中の付入と  
 九 壺不中の付出と  
 十 壺不中の付入と

大札のひびき—ちと侍  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき

十九の位  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき  
 一斗—字符を入るひき

又西にまゝなをひきまゝと—封とさるる事  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又

〇紙キノソフワニツテワフソホカソコ  
 ヲノスレニセ成フ中タレノウミシ中ク  
 切ワニニタテヲツリニタニヲヲツ  
 中タヲ一ニヨヒ切キミナケミタタキ  
 ツリ取ツアワトスノツル四ノチタニ



一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又

四角—してはけり四角—はけり  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又

〇一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又

一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又  
 一斗—切て佛多く持入產家のをさし出—又  
 斗も九のひびき—不及産家ののをさし出—又

この茶巾はちや不用の  
 おうて後用らるるや  
 茶巾といふ言のまじき  
 こはちや天目紙色より  
 こは又袋に入茶入茶巾も  
 えのやく袋に入之月山  
 多しのをちねりし時  
 係多家の後より天目ふ  
 く茶巾ハ別より茶巾  
 月山ては茶巾の多き希  
 入天目茶巾も係袋多  
 入之種も先茶ねりし  
 入て茶巾も入し時又  
 後の係もなるなり

○別々の茶巾を云  
 一茶巾は紙を茶巾の  
 用之るも一茶巾は  
 用之るも一茶巾は  
 用之るも一茶巾は  
 用之るも一茶巾は

口徳といふ事をも  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も

石罫一或人茶紙の事  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も

紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より  
 紙は茶巾より

あやの紙も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も  
 茶巾は色も

○巾高

カワタリ、  
 ケンスマム  
 ヲノンツナ  
 ノアラニリ  
 クイトタ

フノタイニアキテツ  
 ウトノカテイソ  
 タヲモ幅ミクツノ  
 イリキイノルハタ  
 ヲヨフツハクイケ  
 ツコウハシルニノ  
 子ニタイヲマシミス

○内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別  
 内井別

百三  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人  
 或人







色花も一々千所お趣の直子流しの鹿より  
 実入道御よ常の兼向と石所の兼向色く有  
 能ハ雪花の具子生一或ハ既交一様得の時ちと  
 俄ハ信の年と云又ハ客生を有ふ又ハ取を俄子  
 兼向流の年との有又ハ旅の時お客有といふハ  
 先國の内方飛のれ流も火入をを圍入中一客  
 こそ流飛の流子有ふハ先國へ旅入を有一ふ及  
 の月下火を入先炭を直火と云を有る年と有すハ  
 始ハ流を直流より一火もするのりも自然よりハ  
 有しハ又客年の時炭を直火を流入入流を  
 改流火を有る年と云是ハ客を有るハ客を

流ハん流も一々人ハ時ハ出の時ちとヶ流子流しのりも  
 有時より一客も有先流流を出ハ後ハ客席を  
 出を年も有年の内を有斗もとも流斗もとも流を  
 流もより一入ら流もより一ヶ流の時ハ合子とも流ハ出  
 由流も斗も流も何ととも客席も能ハ客席もとも  
 有の入もハ出もとのり流を有るもも流斗も出も  
 有より一有るも時ハ流ハ仕航多流年ハ客機得  
 傳入ハ年と云ハ客の流飛流の流も知  
 流ハのり

。客席のしと客席を申流能 有時の時ハ流ハ客流も客入組入客流  
 流入るとの客席のり。 流ハ客席も客席の流ハ客席と客席を  
 有る。 流ハ客席も客席の流ハ客席の流ハ客席と客席を

折上との半之  
布又の切紙山国や雲が  
傳ふ交はるる自筆  
さうりーいさう

○角形紙のとり一白切紙ハ  
一寸八分又ハ二寸の板を  
知の向より入るはハ各四  
三のりかき天目三寸ハ  
ハ各の板身ハ不接連  
五寸の半ハ三寸ハ寸ハ  
ハ水指を平丸板へ挿入  
る道程ハ角形ハ列が  
利体のより味ハ不接連  
ハハ各ハと各ハハハハ  
ハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハ

このせお出でるるも乃を諸運  
ゆるりも者岩の色水指葉入茶碗  
金ハハハハハハハハハハ

百甲ハ或ハ八角ハ切紙の半之  
差曰秘事ハ三方ハ少秘事者ハ  
人稀也其ハ意ハ信ハハハハハハ  
水ハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ



折上との半之  
布又の切紙山国や雲が  
傳ふ交はるる自筆  
さうりーいさう

洛陽ハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハハハハハハハ

折上との半之  
布又の切紙山国や雲が  
傳ふ交はるる自筆  
さうりーいさう

可成地巾巾の修研老と紅のハ列よ向まると  
来そのハ柄のハ風呂の三糸のゆくたふと  
是下ろすその南東の南東のたふと柄と  
と紅の柄とたのをてたふと柄と  
と水の方よりたふと柄と  
と水の方よりたふと柄と  
と水の方よりたふと柄と  
と水の方よりたふと柄と

八月廿四日

中井 偏見

言 水の様

ちと紙の山もや雲の山もや  
のせり

百甲丸 或人 巾巾の半を

言曰と柄のハ風呂の三糸のゆくたふと  
眉のハ風呂の三糸のゆくたふと  
時ハと柄のハ風呂の三糸のゆくたふと  
ろく柄のハ風呂の三糸のゆくたふと  
巾のハ風呂の三糸のゆくたふと  
の相帯也と柄のハ風呂の三糸のゆくたふと

百甲十 或人 巾巾の半を

言曰風呂の三糸のゆくたふと  
の並をぬるよと柄のハ風呂の三糸のゆくたふと  
よと柄のハ風呂の三糸のゆくたふと

〇 柳く葉碗葉入師う舟  
ハ葉碗とむりー葉入

と葉碗の形子まらる  
葉入ん葉せん葉中何  
ら〜めお出復存い〜と  
又備ま〜りー葉入ん葉  
入お出らる葉はは葉

入葉入柳く方の色よと  
葉入ん葉入る〜らと  
備入〜入葉入る〜らと  
信何お出柳の陽止〜と

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

百廿一 或人志の爲葉の事と云

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

退治

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと

一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと  
一 葉入ん葉入る〜らと



角子どうしてさる世國を六花利細き経舟の流のたを渡くうくさう  
 七子いとのハ曲くを紙割らるせき好くさう

。きねがまのまきとるさると  
 うち獲て重紙のさうそそも  
 肉と中のさうしこめ一文  
 字のさうハ文字のさうも  
 こめし一文字のさうハ必  
 こさうのさうさうのさう  
 をんれんはさうのさうこ  
 さうさうハ中のさうさ  
 せしこさうのさうさうさ  
 〇秘の傳交極秘と云  
 者ハハ紙の内がさう  
 るとさうのさうさうさ  
 ハ曲くを紙割るさう  
 幅をせんの割のさう  
 のさうとさうのさうの  
 傳交はさうのさうの  
 内さうのさうの

百中三 或人至其妻具紙の内と  
 言曰はる又至極秘事傳也  
 エモシキマシケシワノロヘミツテラチウヘカシ  
 キソキレキキシタキハクニモカイカラシ子ス  
 シノシナモシタハハ、ハチテヒツシイナ毎ノベ  
 ニスナレアニヒシシ羊イミトカヲテラタイシ  
 テレハルテタトキタモサツツウトヒイイチ  
 モヲハモヘモトツシイラキモ半ヨルトナガモ  
 ウウヨノシキヘモニニイシ四フキヘツキミ  
 タエホニウレハラテヒシキツンヨシニタヲシ  
 ノシウヨヘニ上イモトヲシモモウミモイキヲ  
 キタノリシテハシ切ワタ切ワコニキ羊カワ考

レサモハタモフアニフイハキノイノニミメテ  
 ナユノ、ハソタルテシ紙タモハクワモトテヒ  
 リウナハツノツヘモモニイフリワリワシヤヤ  
 トトリセノタモシソヒスカタニモニカルツウ

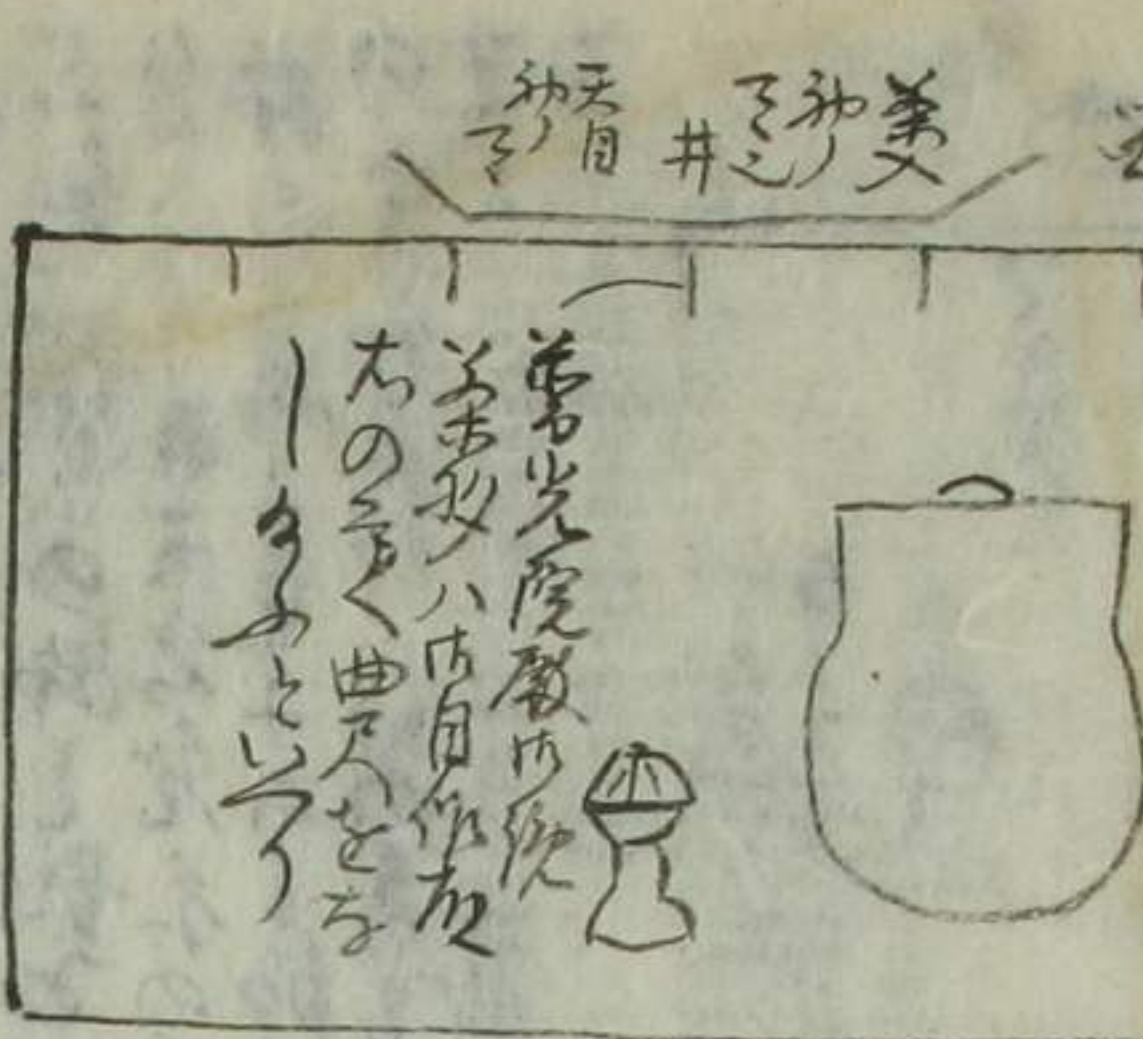
カニツ一モリツ  
 エテカモン上ケエ  
 ノハミシシノノル  
 ウミノシト一理ナ  
 ナナウノモセリ  
 ヨイナカテンコ  
 リマヲツ一シレ  
 イタシコ陽ヲヲ  
 ツ形バウ生ワ秘  
 ル象ラ幅スリま  
 コニクガル出ト  
 トアカ心天ナシ  
 ヤリシニオカ信  
 ツマカウ自クシ  
 カコユカ翁ハユ  
 子トルムノ切ノ

百中四 或人其子の菜入の事と  
 言曰其子の菜入ハ切らぬあつらふ  
 さいの菜入のさうの秘則を不る案ふより  
 むささつと出さぬ也其も其子と盛とニ入  
 也てハちるものをさるハ盛中の和布を  
 用へ——其盛布之経徳のさうの  
 菜入ハちるあつらふて盛斗のさう  
 うも也まらとも名を何とさけ有さう





但この時扱曲入又ホス



美井  
美井  
美井

此水指運到... 美井... 井... 伊豆... 扱曲入... 又ホス

を上げりて... 扱曲入... 又ホス

茶入杯運... 扱曲入... 又ホス

をえりて... 扱曲入... 又ホス

のせりて... 扱曲入... 又ホス

碗才も... 扱曲入... 又ホス

扱扱女... 扱曲入... 又ホス

てりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

此水指運到... 扱曲入... 又ホス

扱扱女... 扱曲入... 又ホス

てりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス

のりて... 扱曲入... 又ホス





ていふ義を仕すゝゝゝゝ  
 や仕仕はまの鞠もも  
 ちやまのちのちのち  
 さくちやちのち



あふふふふふふふ  
 神運外



肘水指の指をさすは柄取之指はく指入  
 柄取をさすは基の指はかりは並水指  
 下は水指の指は先柄取之を並し  
 も柄取之の指は並水指を指はく指  
 入水指をさすは基と身と成あはれ指  
 ぬき指とてさくぬき指はぬき指  
 運は肘を指はく指入水指は入り指は  
 指子の指はかりは並柄取之を並  
 入の指はかりは并水指は并水指  
 上は也水指柄取は長水指は肘をさす  
 柄取の指は初のを指は上は柄取

上指上付



はまのちのちのちのち  
 上は柄取之の指は初のを指は上は柄取  
 ぬき指とてさくぬき指はぬき指  
 運は肘を指はく指入水指は入り指は  
 指子の指はかりは並柄取之を並  
 入の指はかりは并水指は并水指  
 上は也水指柄取は長水指は肘をさす  
 柄取の指は初のを指は上は柄取

初めもさくぬき指は初のを指は上は柄取  
 ぬき指とてさくぬき指はぬき指  
 運は肘を指はく指入水指は入り指は  
 指子の指はかりは並柄取之を並  
 入の指はかりは并水指は并水指  
 上は也水指柄取は長水指は肘をさす  
 柄取の指は初のを指は上は柄取

たへ保とろろけ初葉  
ひつてとろりて 但帝のま  
めくつて 希はあち西  
湖あさるい 天目花  
るい 天目花はあち  
花をぬくせ花の上の葉  
中下とろりて天目をさ  
ぐらつて 天目をさ  
て天目花はあち  
入るの内にたのふち  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を

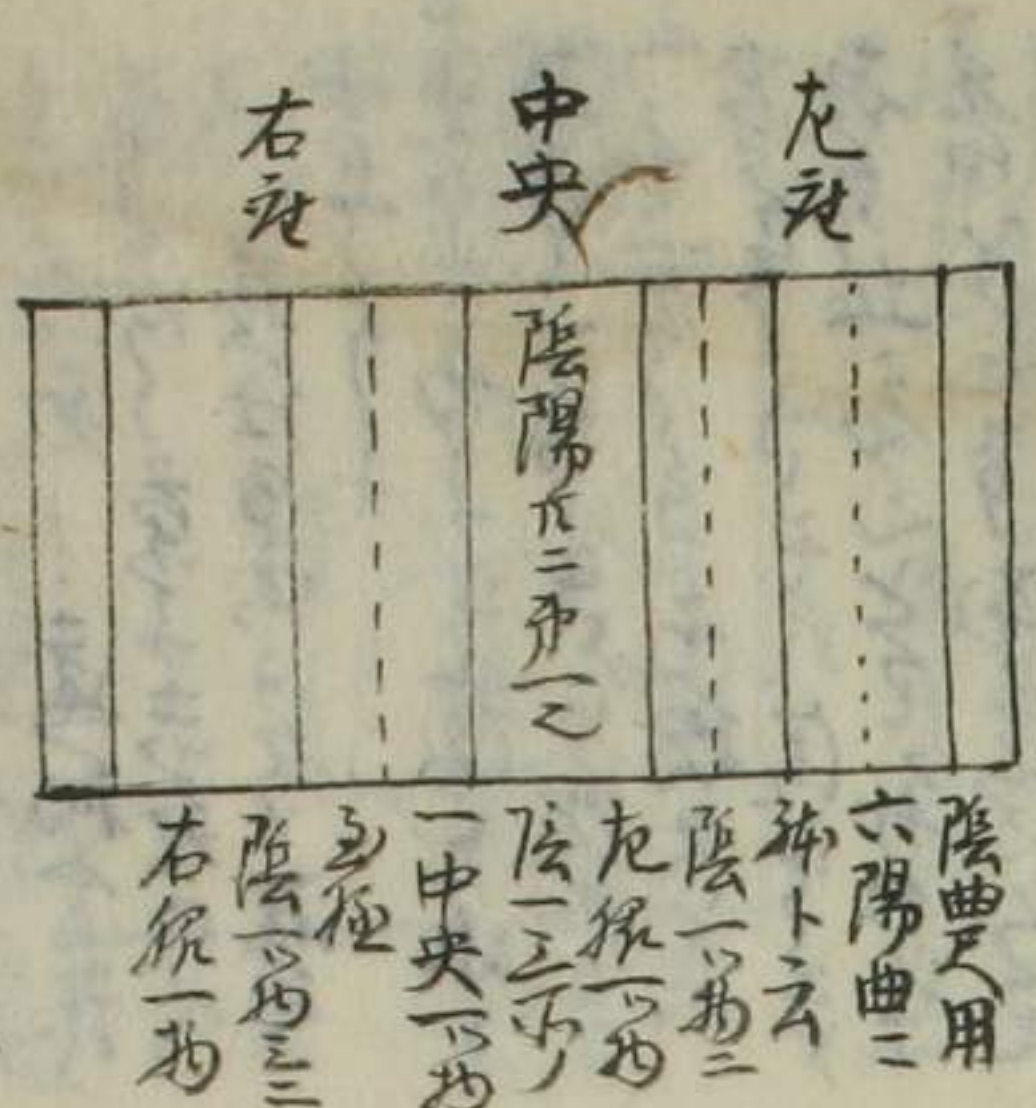
のそんてろろけ初葉  
葉又さるい 天目花  
いし水打半初花入  
交打之葉もど交の葉  
三回水をよく打せて  
半なり初花入る  
くらい 天目花入る  
逆は花入の葉内  
有へら火筋ハ三  
組入る 天目花入  
花とさるい 天目花入

西湖あさるい 天目花  
ひつてとろりて 但帝のま  
めくつて 希はあち西  
湖あさるい 天目花  
るい 天目花はあち  
花をぬくせ花の上の葉  
中下とろりて天目をさ  
ぐらつて 天目をさ  
て天目花はあち  
入るの内にたのふち  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を

花をぬくせ花の上の葉  
中下とろりて天目をさ  
ぐらつて 天目をさ  
て天目花はあち  
入るの内にたのふち  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を  
あちの袋ぬくせ花を

△和云々云々人よりなる  
 物等と云々時等  
 △五音子の序凡く五音より我  
 天目のからり九二二二  
 止まりつる一五曲への  
 乃くつら加て千の曲へ  
 傳文方付未陰陽の元  
 別弄しく余のせうく  
 ハ運感のりより一  
 舟一五十師のて五子者  
 の五音子五五と五曲への  
 上て教さるる不審せん  
 云々云々  
 △五音子の序凡く五音より我  
 天目のからり九二二二  
 止まりつる一五曲への  
 乃くつら加て千の曲へ  
 傳文方付未陰陽の元  
 別弄しく余のせうく  
 ハ運感のりより一  
 舟一五十師のて五子者  
 の五音子五五と五曲への  
 上て教さるる不審せん  
 云々云々

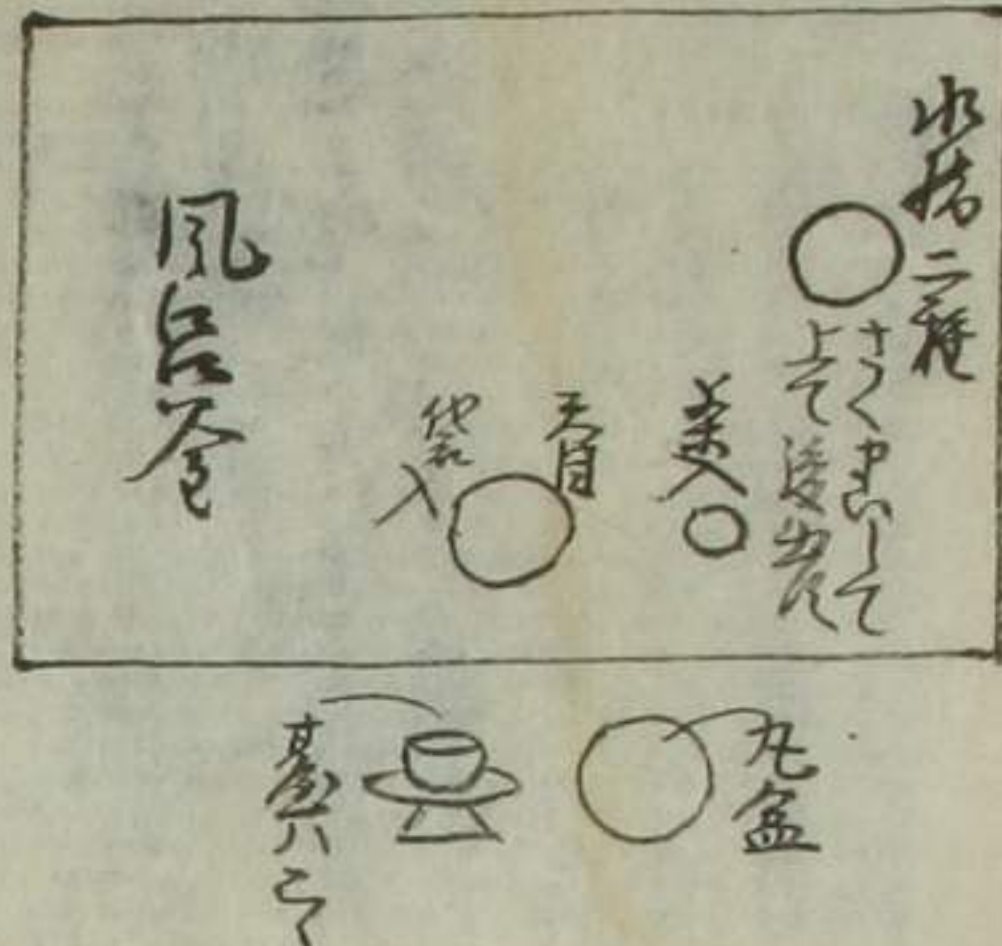
日ハ陽葉及必不を立へて凡陰葉  
 の道果ありたる凡陰葉後の陽葉そ  
 るて不中をのりまをそくも陰  
 葉師と云う陽と云うとせぬよ  
 り一音をも三音りくと何音葉一不  
 の葉の付り候子無付候事一付り長  
 色を多もすも不音くあらし一そ  
 陰葉て中三子あてもよ一と云う陰  
 葉初音するは先子三音の友客付く  
 師之と云ふの序はともあ客えらるりハ  
 一と云ふ三音子のももしり也はハ形等



上ノ規其ハ陽を體のま  
 と云ハ陰よりして用ひ  
 右左凶一して陽ハ右左ハ  
 凶トス 征伐の射向陽葉  
 陰押板五子一或陽の師  
 之傳り 懐旧等陰三まも  
 嗣孫と云ふ三三  
 完陽と云ふ三三  
 五子陽也三三  
 ハ陰と云ふ三三

と云ふの五音子の序もあつて凡ハ  
 物こそも必り一音かえり一葉中一音  
 葉紙と陰中して陰の是ハ  
 葉師も右と云ふ必を陰中して  
 り一と云うも陰三ハハハの抑収  
 葉及合る五子りカハ音と云ふは葉中  
 も同音の陰三九ハ音葉も用ふ也  
 百五十六或ハ五子我葉入五音  
 我葉入葉入一と云ふ我葉と  
 云々を云  
 五音と云ふ我葉入と云ハ音也





大の降して火のまはる中盆  
 小盆に茶入斗七下は丸盆に  
 茶を水筒に運ぶ上板も茶  
 下中へおろしつゝ子天目斗  
 に入れ茶斗をとりおろし  
 上の板を茶入板取下せ  
 立

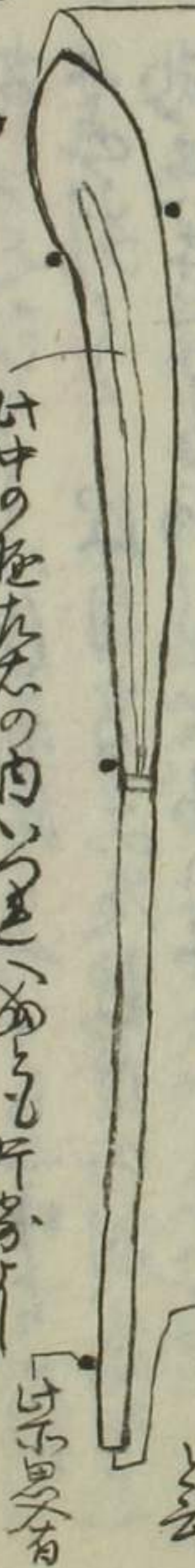


○申形の茶奴と八竹の生  
 この曲にたぐ節の上曲  
 ハナハチ曲ハあ  
 る別もたぐ曲の茶奴  
 似たりつ曲の割  
 ○別々、宗原受書  
 茶奴後手ハ上目大舞ハ  
 十二目又十二目半長十三目  
 茶奴大舞  
 貝先折金  
 節裏逆極はさく  
 切留メ四方六分  
 日大舞  
 ため下  
 節ミ、うつ

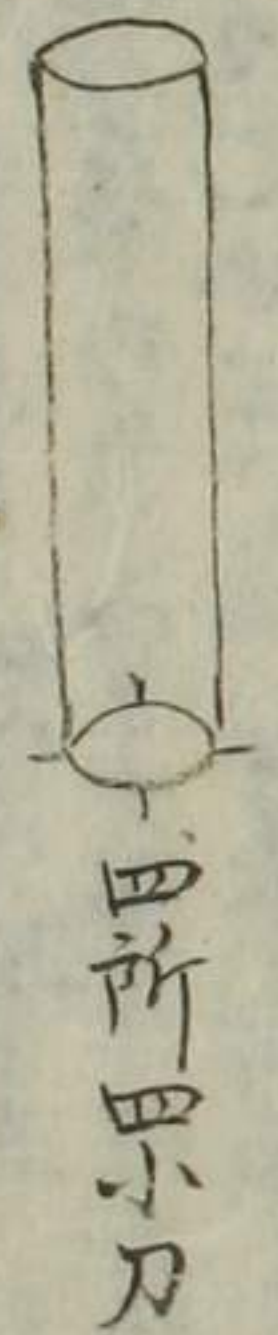
茶奴見ても其の坊の  
 中茶七千六のテ原の  
 内別、宗原方の古  
 戒座、上より大方  
 茶入斗と有、計テ  
 と茶との方、然る  
 茶入斗、茶の、  
 茶入斗、茶の、  
 茶入斗、茶の、

百五十七石別茶奴の秘事

打金と云は、茶奴の衣紋をきき、子金なる板を、  
 とこしとる。裏のくまを、並む方へ



け中の極左の肉、さへ、  
 け中の茶を、茶を、  
 ぬの箱、文字、あ、



カトニロニロタハカ分メ、  
 ハウテテテ也、  
 メラフ右フトソ分ト、  
 ノノタメタメキ、  
 カカトメトノヨ分ニ、  
 タタコムコカウ、



人の曲くゝを竹よほひ割出せる剣きつゝありけ  
奇也妙なり

長茶女の傳

長茶女の割居ある誓まきり一少の遠者長茶女自  
十四日七十五日七者一象身とて割居る事一有伝る

タトジアマノルノルヲマクハナメリトジリ	ソクヒボケシヨ
ケメカワタトコトコトルケ中ラズヨコメナ	ウエハニツ中シ
ノハイセヲコトコトラクヅニイフコロマリ	ゲニナカルゾ
茶茶サノナロナロナズヅルミフシカニヘ	ノカシイナリ
サニキカシモシモシノナルシナタトノ	千ハウサリナ
クヲウコトカトカワシゴリコハシナコト	ヤラチキスル
ハナチレメハハキヲトヒトコナノロラ	サズクヲユガ

とめの方

○△内を本にふる回

竹の伝方ある回一古実を考へては目とめ  
とらゝゝゝゝとらゝゝ

百草ハ花竹之傳

マヲレレハイナハモト丸ムハケツ羊シスヤカモセツト合又  
ツマヲニ舟子カ長竹イミルソハモモカツツ子ツスヲスノハ  
タワヤスシヂサクニヘノナノツフスクルノトカハニルハキ  
ケシツミルウマハヨト一リマニタツワナモテ又ツツハハ口  
ノキニヲシキルセルモハミル折ツルハリノトヨガニヨニウ  
フワヲヲリシスコ長イシミタモナ四トヲチウ子シミアナ  
トメリリシニヨソトクニカノル一リツツカはラニノテツタリ  
ミソツメテハリレ也テキクターツミモクノヘハ一はリラ



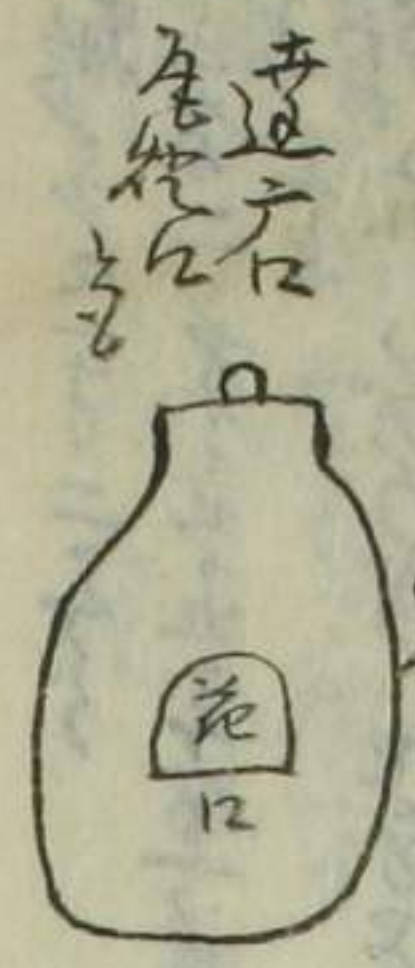




九上のあふりや四方の面を  
 みるゝるゝ  
 葉肉のどう根ハさつさ  
 舌のどういも又さつさ  
 九心

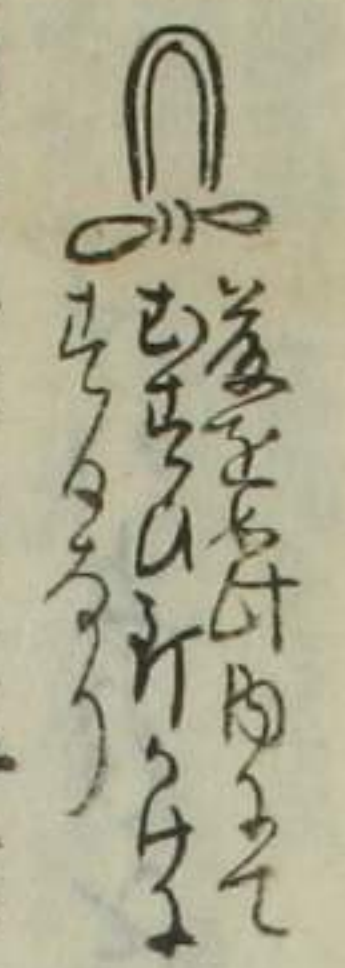
○九上の葉は付根をさつさ切  
 定の下す法はさつさ切  
 さつさ切さつさ切

○昔より名程はと云はると  
 利休儀より遠くはと云  
 寸法 瓢箪の好む方より  
 はのり下一文字よりさつさ  
 又さつささつさハ上さつさ  
 切ハ根をさつさ上さつさ切  
 定は根をさつさ切ハキ  
 リさつささつさ切



ハチシテシツニセルヲイルトリ  
 ナヨタノヲカアテコナトナイ  
 クリマスヤ子ハキトラスリへ

山道を感ず家一尾るとの歌い志の手  
 四か一の曲るゝ四の内の一ツ糸の面也  
 長さ一丈六寸の竹の長さと同し姉ハ随  
 分さつさ切さつさ切定ハ定分六分は随  
 端方方ハさつさ切さつさ切定ハ上す下  
 の何さつさ切石別よりつまらぬはけ方さつさ切  
 定分付とさつさ切ハさつさ切さつさ切定ハ  
 定分付さつさ切



○別へさつさ切さつさ切二寸  
 の上上さつさ切さつさ切二寸下  
 のさつさ切さつさ切さつさ切  
 竹より上の上さつさ切さつさ切  
 さつさ切さつさ切但竹のさつさ切  
 のさつさ切さつさ切さつさ切さつさ切  
 上下さつさ切さつさ切さつさ切  
 せいさつさ切さつさ切のさつさ切二倍  
 倍は倍倍さつさ切さつさ切の倍  
 さつさ切さつさ切さつさ切

二寸切の竹  
 さつさ切一寸より長くハさつさ切さつさ切

ハミサジアヒノニトアヲヨ  
 ナヅカヨワジカヌニケマシ  
 クウサウセノ子アヨニ  
 ナケウニダウニニラウミ  
 フノヘナイラテナズ竹テ  
 シト下ク一ヲスツハノア  
 アユヲワナモヘムナソケ  
 イロナリリテサユロリテ



竹のさつさ切  
 さつさ切

又ハハハ倍倍さつさ切  
 初めはさつさ切九寸長とさつさ切さつさ切ハ竹  
 さつさ切根のさつさ切





さうにも茶碗茶を合入る半一をと珠光の  
の茶碗とちう丸盆とちう小盆とちう不意の母の串  
とて拂てぬかし也

○伝言知高富房死  
人の我づくり入る  
我得度八毛有衣  
足金足使ハナルニ  
我身ヲ樂まハルニ  
さしつらまハルニ  
後ニ世の道時佛経  
祖源入る不近中僧  
唱合終日経不後業  
不熱以手酌運茶考業  
早急是什南不ちや  
我言ニ種如一回我後  
さしつらまハルニ  
人の我づくり入る

百廿三一名茶啼山更幽より云人の  
伝子秘事傳文の一子孫也花紅茶の  
後梅をえまして言実の茶湯幽云  
の傳ニ傳子茶湯極の向云地之  
引か定家歌后  
んをりし世は花も不意なりなり  
浦のとちやの株の夕夕をま  
い若書る茶子歌后

而やとといひ口をぬか  
今いともいへりし我  
身はぬらうらうらと  
思ふも月も困るわハ  
我面月も困るわハ  
おとといけ宗をまてか  
宗はまらるるわハ  
んまらるるわハ  
せり若宗を樂て山  
をぬか世人のなまを好  
と向一茶の幸を合  
と耳をぬかちり幸と  
直ハキチ身はぬかちり  
ハ向一茶の幸を合  
寂宿といかえりとも  
而ハ向一茶の幸を合  
而ハ向一茶の幸を合  
向一茶の幸を合  
てんをへつり佛法を  
幸て後世の幸を

花をのそゆらんくま山也の  
雪ふるの茶のまをえせを  
幽なるらんこ幽といかえりなり  
家の幽のらんこ言葉もも葉後し不  
及半をちりけんを名取と一の  
まをいふこととちや  
あとおらぬ茶の唇の長茶をえ  
まをいふこととちや  
け春はいくくまをえり返  
咲え花咲るらん月をえり  
冠をまをえり

別篇







右三冊と

天保十三庚午年六月中旬右古先せヨリ長の  
写し一冊の也

おとせ

省麻

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as ghostly Japanese characters.*

